

歩いてみよう!歴史の街 = はつかいち
西国街道ルートマップ



広島城下から西
廿日市



西広島バイパス

洞雲寺

佐方一里塚跡

福佐売神社

廿日市駅

天満宮

街道松
桜尾城址
津和野藩跡
御船屋敷跡

廿日市本陣跡

可愛川

宮内串戸駅

御手洗川

瀬野の森公園

専念寺

宮内一里塚跡

廿日市市観光ボランティアガイドわかばがご案内します

歩いてみよう!歴史の街 = はつかいち

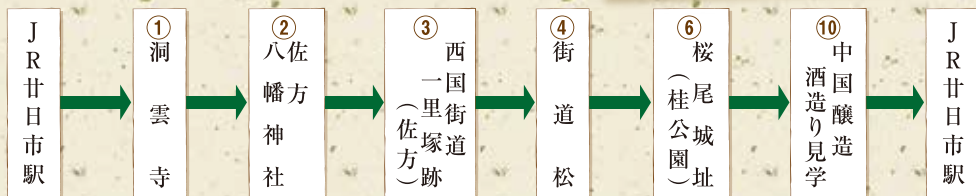
① 洞雲寺と桜尾城址コース

全行程 約4km 所要時間 約4時間



② 洞雲寺・桜尾城址コースと蔵元見学

全行程 約3km 所要時間 約3時間30分



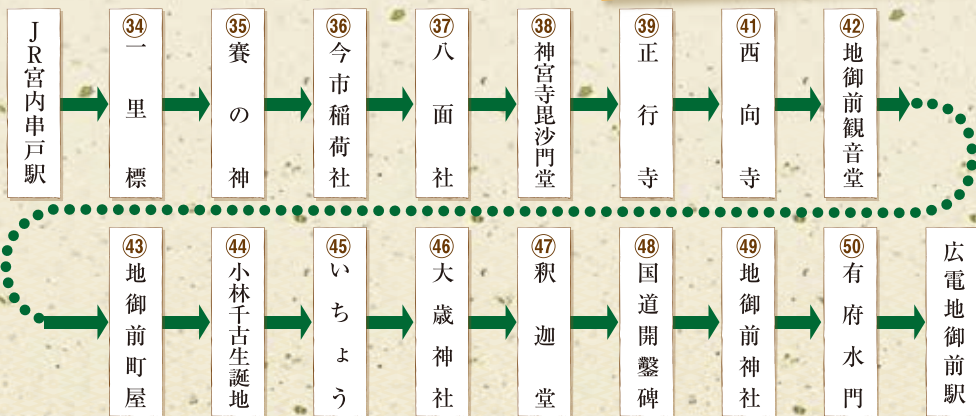
③ 極楽寺参拝登山と古刹洞雲寺を訪ねる

全行程 約14km 所要時間 約8時間



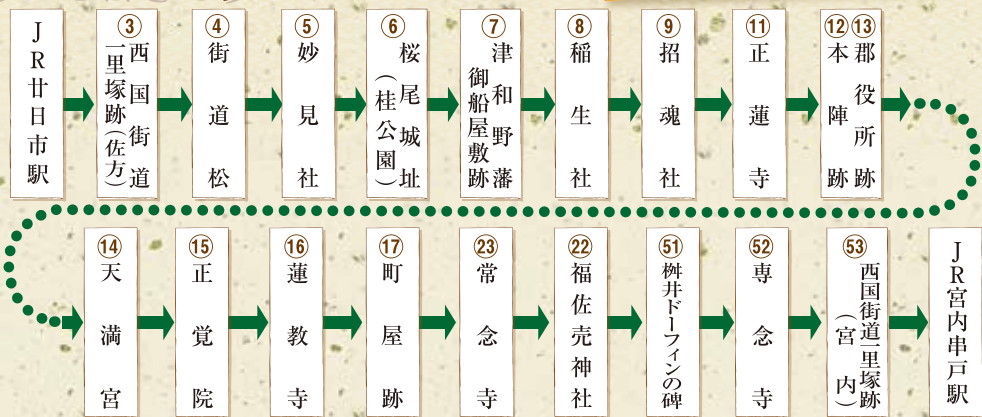
④ 地御前コース

全行程 約4km 所要時間 約4時間



⑤ 西国街道を歩こう

全行程 約12km 所要時間 約5時間



※逆コースになることもあります。

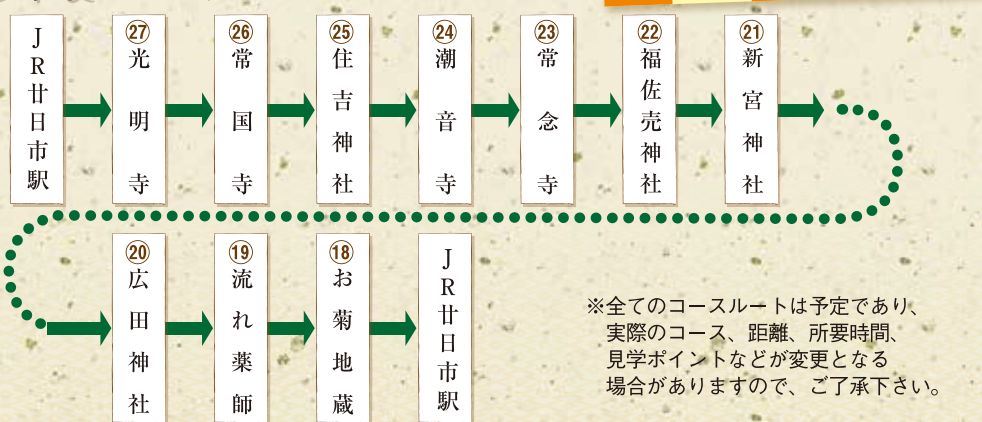
⑥ 宮内コース

全行程 約4km 所要時間 約4時間



⑦ 平良コース

全行程 約4km 所要時間 約4時間

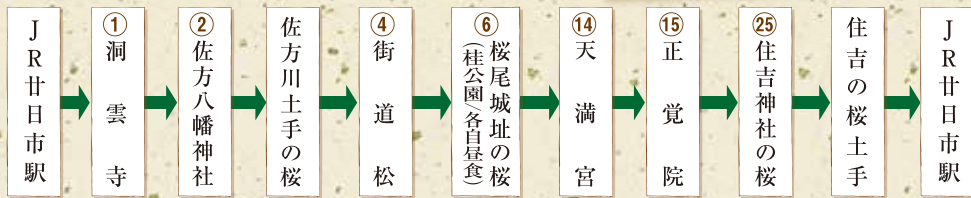


※全てのコースルートは予定であり、実際のコース、距離、所要時間、見学ポイントなどが変更となる場合がありますので、ご了承下さい。

花とお祭コース

① 廿日市の桜と洞雲寺と桜尾城址コース

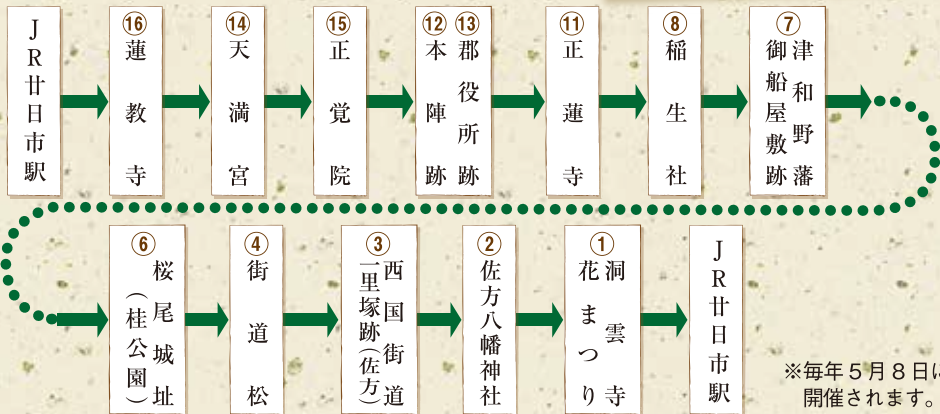
全行程 約4km 所要時間 約4時間



※年により桜の開花が時期、場所により異なります。ウォークの日に見頃でないこともあります。

② 洞雲寺の「花まつり」と桜尾城址コース

全行程 約4km 所要時間 約4時間



※毎年5月8日に開催されます。

③ 地御前コースと「御陵衣祭」

全行程 約4km 所要時間 約4時間



※御陵衣祭は旧暦の5月5日に行われ、14:00頃からの神事（舞楽、流鏝馬）がメインとなります。御陵衣祭は解散後の自由見学となります。

はつがいを歩こう！

1 洞雲寺 (とううんじ)

禪宗・曹洞宗応龍山

巖島神社神主の藤原教親(のりちか)・宗親(むねちか)父子が、大内氏の重臣陶氏の菩提寺である周防龍文寺の金剛用兼(きんこうようけん)を招いて、長亨元年(1487)開山した神主家の菩提寺です。



洞雲寺には藤原神主家、大内氏、陶氏、毛利氏などより受けた中世文書と金剛用兼ゆかりの品々が伝えられ、境内には藤原興藤を始め、陶晴賢、桂元澄夫妻、毛利元清夫妻が祀られています。

妻の墓碑などがあり、戦国時代の興亡の姿をいまに語りかけています。本堂脇には、名水「金剛水」が湧き出ています。

絹本着色金剛用兼禪師肖像画、洞雲寺文書、紙本墨書洞雲寺本正法眼藏、金剛用兼禪師関係遺品(以上原重文)、三十三観音菩薩像、厨子入釈迦十六羅漢像、博仏、杖(以上市重文)、戦国武将の墓は史跡に指定されています。

2 佐方八幡神社

佐方の氏神。境内には偉大な天文学者・科学者であった堀田仁助が寄進した石灯笼があります。

仁助は津和野藩士で御船屋敷に生まれ、幕府の天文方になり蝦夷地の測量にあたり地図を完成。



後に全国を測量したことで有名な弟子の伊能忠敬を後任に推挙しました。

石灯笼の銘文「文化五年戊辰年四月十一日建之 天文生堀田仁助 藤原泉尹」

3 西国街道一里塚跡(佐方)

佐方口の一里塚は広島元標からは三里塚、次の西寄りには宮内専念寺です。西国街道の道幅は2間半(4.5m)、36丁毎に一里塚がありました。



4 街道松

寛永10年(1633)広島藩は幕府巡検使のために西国街道の整備を行い、街道の両側に松の並木を植えました。現在、廿日市で唯一残っている街道松です。



5 妙見社

妙見菩薩は北極星を神格化したもので、胎内には明和7年(1770)造立の墨書が見られます。



6 桜尾城址(桂公園)

桜尾城は海に臨んだ要害の地で、中世の廿日市の象徴ともいえるべき巖島神社神主家藤原氏の居城でした。鎌倉幕府の有力御家人であった藤原親実が承久3年(1221)に任命された以降、代々世襲しましたが、天文10年(1541)周防の大内氏に攻められ城は炎上し、藤原(友田)興藤は自刃、320年間続いた藤原家は滅亡しました。廿日市市で一番最初の公園で、大正元年桂元澄の子孫である公爵桂太郎が桜尾城跡を永久的に残すため金山を買収し寄贈され、大正

2年5月8日に開園式が行われました。その後昭和42年に都市計画決定されると丘陵地を切り削り、新たに都市公園として整備され昭和46年4月開園しました。
面積16,501㎡。今では石碑以外に昔を偲ぶ物もなくこの地が昔は城があったことすら忘れられようとしています。



7 津和野藩御船屋敷跡

津和野藩亀井家は、元和6年（1620）広島藩との合意のもとに、桜尾城跡の西側一帯に居留地を設け御船屋敷としました。参勤交代や石州和紙搬出の中継地として上方との往来に廿日市を経て海路をとり室津（兵庫県御津町）への上陸の起点でした。



8 稲生社（いなりしゃ）

もとは御船屋敷に祀られていました。津和野太鼓谷稲成神社の分神を祀ったもので、石灯籠には寛政3年（1791）の寄進と刻まれています。



9 招魂社

明治天皇が西幸され地御前から人力車でこの地にあつた岩尾邸で休憩された所で、かつてはこの地域では最も神聖な場所とされ、清掃と敬礼を欠かさなかつたと云われています。



岩尾邸は宮内の専念寺の庫裏として移設されましたが後に取り壊されました。

10 中国醸造

広島のお酒と言えば日本酒を思い浮かべる人も多いかも知れませんが、日本酒だけでなく、焼酎、みりん、リキュール、ウイスキーなど幅広いお酒の製造を手がけている会社が中国醸造です。

大正7年の創業以来、廿日市にて、豊かな海と山の恵みを生かした広島ならではの酒造りによって、食文化の創造と広島のまちの発展に寄与しています。



11 正蓮寺

高浜虚子の句が入った梵鐘「結縁は疑無き花盛（けちえんはうたがいもなきはなさかり）」。山田治右衛門作の梵鐘がありました。昭和17年に戦時供出、24年に再鑄造された俳句入りの珍しい梵鐘です。



12 本陣跡

西国街道や津和野街道の交通の要地であつた廿日市には宿駅が設けられ本陣や脇本陣があり、この本陣は山田治右衛門が代々世襲していました。長州戦争の戦火で尽く灰塵に帰しました。

本陣は山田家の居宅と建て続きで併せて18室を備えた堂々たるものでした。



13 郡役所跡

明治11年にこの地に佐伯郡役所がおかれました。明治22年竣工の建物は当時流行りの模擬洋風建築で、庁舎は白壁瓦葺、正面の広い吹き放しのペランダや柱の上下の円い飾り、新鮮なデザイン鉄柵などの美しい佇まいで「郡元廿日市」を象徴するシンボルでした。

大正15年佐伯郡役所が廃庁となり、昭和46年公民館建設のため姿を消しました。



14 天満宮

廿日市の中央標高29.2mの篠尾山(さおやま)に般若神社社主の藤原親実(ちかざね)が、守護神として鎌倉の荏柄天満宮を勧請したものと伝えられ、神主家滅亡後は廿日市の氏神として記されています。境内には廿日市港を介して各地との交易が行われていたことを示す関係者寄進の玉垣や、廿日市の問屋商人が寄進した常夜灯「ミヨノ火」があり、参道の石段は117段あります。絹本墨書天満宮神号(石鳥居の扇額・市重文)



15 正覚院

真言宗高野山派篠尾山

天平9年行基の開基と伝えられ江戸時代は正覚院が天満宮を祀っていたので天神坊と呼ばれていました。天明6年(1786)山田貞運の鑄造による梵鐘、不動明王立像

金銅製五鈷鈴(県重文)、役の行者倚像・木造十王像・絹本着色四所明神

曼荼羅・絹本着色如来荒神図・金銅製五鈷杵・独鈷杵(市重文)



16 蓮教寺

浄土真宗本願寺派慈恩山

真宗寺院の中では最も古い寺の一つです。境内にあるソテツ(市天然記念物)は津和野藩御船屋敷の御茶屋前にあったものが移植されました。延宝七年(1679)山田貞栄の鑄造による梵鐘、阿弥陀如来立像、苦行釈迦坐像、親鸞聖人旅立倚像・絹本着色

弥陀来迎図・紙本着色弥陀善導・法然三尊図(いずれも市重文)



17 町屋跡

第2次長州戦争、慶応2年(1866)の際、長州軍の廿日市通過を阻止するとともに、広島藩兵の士気を鼓舞するために、藩兵に命じて火を放ちましたが、寺、神社などは焼失を免れました。

町屋の三分の二が焼失しました。



18 お菊地蔵

昔、お菊という娘が、極楽寺山で生まれて間もない子猿を2匹、可愛さのあまり連れて帰ったが、死んでしまいました。母猿の歎きによるものか、以来、村里には度々厄害が起きるようになりました。それでお菊はその子猿を地藏尊により弔いました。以来「お菊地藏さん」といわれ、村人の願いを聞き、親しまれています。



19 流れ薬師

昔、原の川末は玖島津田・吉和への交通の要所でした。泉水畔に向かうところには旅の安穩を祈る薬師如来が祀られていました。ある年大洪水があり、薬師様も水害にあわれ速谷川の瀬が緩やかになる下平良の大きなクスの木の根元にかかつておられたので、村人は堂を建てお祀りしました。それで「流れ薬師」と呼ばれています。



20 広田神社

かつての宮内村の村社で、串戸の藤掛尾にあります。往古は御衣尾山(みそおやま)に鎮座されましたが、宝暦9年(1760)藤掛尾に移りました。火伏せの神としても知られています。



21 新宮神社

「新宮さん」と親しまれ、永正の頃（1500頃）藤掛尾城主、小方加賀守が城内鎮守として祀りました。のち永禄元年（1558）紀州熊野新宮を合祀し、下平良の氏神としました。「懸け仏」は市の重要文化財です。



22 福佐売神社

「三代実録」貞観14年（872）に節婦の榎本連福佐売（えのもとむらじくくさめ）を祀った神社です。

※「3代実録」

平安時代の歴史書。延喜元年（901）成立。清和、陽成、光孝天皇の3代、30年を記述したものです。



23 常念寺

真宗本願寺派、宝州山と号し、

永正11年（1514）

僧、誓珍によって開基しました。

24 潮音寺

浄土宗、松風山と号し永禄9年（1566）僧、金川龍天によって開基しました。幕末の民間農兵組織である応変隊が結成されたところ



25 住吉神社

住吉新開築調と共に祀られ、住吉新開の守護神とされました。ひぶせの地蔵と北村湖春の句碑（ばせうり芭蕉とあるのは誤り）があります。



26 常国寺

日蓮宗、長栄山と号し、永正12年（1515）僧、日政によって開基されたと伝えられています。

廿日 市本陣 役をつとめた山田家の墓碑があります。



27 光明寺

真宗本願寺派、護念山と号し天文15年（1546）鎮光坊円尊によって開基しました。

また、この寺境内に、この地方で最初に行われた人体解剖の碑があります。

渡辺英子（わたなべえいし）ゆかりの桜の切り株があります。



28 極樂寺山門（仁王門）

上不見山浄土土院極樂寺の山門です。登山道を平良から登つてくると36

丁碑の位置に当たりません。山門前は中国自然歩道です。



29 極樂寺展望台

極樂寺境内の展望台より眼下の瀬戸内海を望むことが出来、その眺めのよさは一見に値します。



30 極楽寺

鳥羽上皇から「上不見山」の勅額を受けた高野山真言宗の別格本山で、上不見山浄土王院極楽寺と号します。標高693mの極楽寺山。その山頂付近にあり、奈良の大仏造営のため諸国を巡歴していた僧行基が天平3年(731)開山、聖武天皇がこれに伽藍を建立したと伝えられる由緒ある古刹です。



真や写生を楽しむことができ、スイレンが咲き誇る時期には多くのカメラマンが訪れます。

と伝えられています。開基以来人々の信仰を集め、今も年間6、7万人の参拝客があります。

31 極楽寺山山頂

標高693mの極楽寺山山頂一帯に及ぶモミの原生林は全国的に見ても屈指の自然林として知られています。植物や野鳥の豊富な豊かな自然環境として多くの人々に親しまれています。山頂には東屋もありますが、展望はきまません。



32 蛇の池

昔、この池に大蛇が棲み農民を困らせるので退治したという伝説が、そのまま池の名称になったという。瀬戸内海国立公園極楽寺山の豊かな自然の中にある蛇の池は、6月中旬〜8月中旬に咲くスイレンが4色の豊かな色彩を漂わせ神秘的な雰囲気感を漂わせてくれます。鯉に餌をあげたり写真や写生を楽しむことができます。

33 極楽寺山憩の森 キャンプ場管理棟

瀬戸内海国立公園極楽寺山内に整備されているキャンプ場で、豊かな自然の中にある蛇の池周辺には常設テントが設置してあります。その他ピクニック広場、多目的広場、炊事棟、さらに管理棟周辺には駐車場が整備されています。管理棟ではデイキャンプの受付や、用品の貸し出しもおこなっており、また、休憩コーナーもあり、地元の新鮮な野菜や特産品の販売もしております。



34 一里標

明治時代になって江戸時代の西国街道が廃止され、海岸沿いの道が完成しました。この一里標は、元安橋東詰の元標から4里の位置に建てられたものです。



35 春の神(ハゼとキズタ)

賽の神は、村境や峠の分かれなどに祀られ、村を悪疫の侵入から守ったり、旅人に憩の場を与えてくれる神様です。(廿日市市石にもあるといわれています。)

賽の神のそばにあるハゼの木は胸高幹囲365cm、これに径20cmのキヅタが、巻きついていました。(平成15年キヅタは枯れました)市天然記念物です。



36 今市稲荷社

伏見稲荷社の分神と伝えられ、五穀豊穣と商売繁盛を守る神様です。安永2年(1773)社を建て奉祀したと伝えられています。また、地御前大歳神社の神輿渡御のお旅所でもありました。



37 八面社(やつもてしや)

極楽寺山の蛇の池に棲む大蛇を退治したところその首がこの地に飛び、大蛇を祀ることに なったと伝えられていますが、農薬用水神を祀ったものと思われま す。



38 神宮寺毘沙門堂

地御前神社神宮寺の開基は定かではないが、仁安(にんあん)3年(1168)の文章にみえます。毘沙門天は、像高1.12cm一木造り平安後期の作とみられます。市重文。屏絵に大ムカデが描かれています。何故でしょう？



39 正行寺

真宗本願寺派、松見山と号し、昔は天台宗であったが寛永元年(1624)の住持、明順によつて浄土

真宗に改宗したと伝えられています。

40 鍔絵(こてえ)

漆喰を塗った上に、鍔で浮き彫り風に家紋、風物などを描き出した絵です。



41 西向寺

真宗本願寺派、智秀山と号し寛永2年(1625)僧玄正が開基したと伝えられています。西向寺蓮華松は、眼前に広がる枝振り、に庄倒され樹齡三百年をこすといわれています。



42 地御前観音堂

智秀山観音堂と梵鐘にみえますが開基の時代は定かではありません。伝承によると宮島の産屋が設けられたが、それに併せて観音堂も建立されたという。本尊は十一面観音立像、室町時代後期の作。



43 地御前町屋

屋根の低い厨子(し)二階が設けられ、外部に露出する木部を漆喰で塗りこめている。また、軒下に設けてある袖壁、出格子、駒寄せなど町屋独特の景観をとどめています。



44 小林千吉(はたせき)生誕地

千吉は明治三年地御前村に生まれました。本名、花吉。明治20年

代々30年代にかけてアメリカに学び、さらにヨーロッパでは黒田清輝などの知己を得、帰国後白馬会に所属、日本洋画壇に鮮烈なデビューを飾りながら、わずか41歳の若さで病没され惜しまれていきます。(代表作 パッション)

45 いちちょう

地御前小学校のものは胸高幹囲318cm、雌株です。



46 大歳神社

地御前の氏神様で、大年神を祀ります。農業の守護神といわれます。



47 釈迦堂

本尊の釈迦如来坐像は丈六像といわれ、坐像高290cm、膝張230cmという。
寄せ木造り、室町中期を下らぬ貴重な大作。



48 国道開鑿碑

明治13年に廿日市以西大竹の県境までの国道が海岸線に沿って新設されました。上部に有栖川宮殿下の筆による「地平天成」とあり、元号「平成」の典故の部です。



49 地御前神社

推古帝の時代、厳島神社建立と同時に外宮社として造営され、市杵島姫外に十神の神を祀ります。

管弦祭

や端午の節句の馬とばしと呼ばれる流鏝馬神事が有名です。



50 有府水門

古くは御鏡の池と称し、管弦祭の時に時化の避難港として使われたといわれています。



51 榊井ドーフィンの碑

榊井光次郎（広島県佐伯郡宮内村＝現廿日市市出身）は現在日本で栽培される無花果（イチジク）の主品種「榊井ドーフィン」の創始者で日本に定着させ、イチジクの代名詞となるまでに仕立て上げた。

52 専念寺

真宗本願寺派、南光山と号す。かつては速谷社供僧十二坊の一つであったと伝えられる。真言宗龍口山神福寺の住持、了源が弘治元年（1555）に改宗し、寺号を専念寺と改めました。

境内にはお茶屋があったそうです。廿日市市立宮内小学校の前身潤身舎が明治5年（1872）11月に設置されました。



53 西国街道一里塚跡(宮内)

広島県標からは四里塚です。昔は黒松が植えてあったそうです。旧廿日市には、佐方岩戸尾山のふもとと、宮内専念寺前にあります。



54 北山観音堂

十二面観音坐像を祀り、台座裏に延享3年（1746）奉斎とあります。坐像高45cm、四面四臂のお姿です。

【前面額】「このころだに まことのみにちにかのふなば きたやまたにに はれるすすくも」

55 北山黄幡社

昔から沢の尾道のほとりにあり、国郡志差出帳には王伴社と書かれています。

五行祭祭文に曰く、「五郎の王子を祀る」とあります。

56 宮迫明神社

厳島明神を祀ります。昔、市杵島姫命が永住の地を求めてこの地を訪れたところ、足元から雉が飛び立ち驚かれて向かいの島に渡られたという伝説があります。

57 宮内天王社

宮内字大幸にあり、祭神は牛頭天王と神武天皇です。宮内上組の氏神でした。

【埃乃宮跡】由緒ある天王宮のあった場所に「二天皇址（＝埃乃宮跡）」と称する碑が立っている。

【巨樹群】境内にケンボナシ、イヌマキ、ムクロジ、エフキの巨樹があります。

58 廃光代寺観音堂

不見山と号し、古くは天王社の別当寺で、慶長年間に廃寺になった。今は観音堂を残す。木造千手観音菩薩立像は像高112cm、室町時代の作。（市重文）

59 権現社

西国街道の畔にあり、紀州熊野権現を祀ると伝えられる。

60 畑口大歳社

上畑口に鎮座し、五穀豊穣の神で、七月の夏祭りには茅の葉が配られる。

61 東光寺説教場

智海山と号し、古く天台宗の僧、智海が開基。天保年間に真宗になる。【地藏菩薩立像】石造地藏菩薩立像は、像高109cm、蓮台も古い。

様式をもっている。

62 宗高尾城址

本城跡は厳島神主家の有力な神領衆である糸賀（糸川）氏の居城である。城跡には階段状の平壇及び堅堀が設けてあり、市内では星ヶ城と共に遺構が残されている数少ない城跡である。

63 平樂寺

古くは真言宗の寺で、速谷神社の供僧寺であった。

64 岩木社

昔、速田明神のお使い五鳥が平良の里に飛来したとき、ところの主岩木翁これを迎え土地を奉ったと伝える。岩木翁を祀る。

65 速谷神社

御祭神は天湯津彦命五世の孫安芸国造速玉命を祀ると社日記は伝えていいます。延長五年(927)の延喜式神名帳は、名神大社に列せられ、月次、新嘗の奉幣を受ける安芸国最高の社格を誇る神社でありました。のち中世・近世の各時代領主の庇護を受けました。しかし、福島時代には社領をとりあげられました。浅野氏により社殿が造営されました。明治六年郷社

となり、大正13年国幣中社に列格されました。古代から交通安全の守護神として知られていました。



66 二重原八幡社

二重原八幡社は応神天皇を祀る。

67 西蓮寺

真宗本願寺派、法林山と号し、僧、法輪の開基した禅宗の寺であったが、慶長8年(1603)、時の住持法徳によって浄土真宗に改宗した。

本誌に収録させていただいております建物、神社、仏閣、神像、仏像などにつきましては、その案内であり、社寺などの都合等により拝観できないものもありますのであらかじめご了承下さい。また、すべての写真はイメージとなります。

JR 宮内串戸駅



JR 廿日市駅

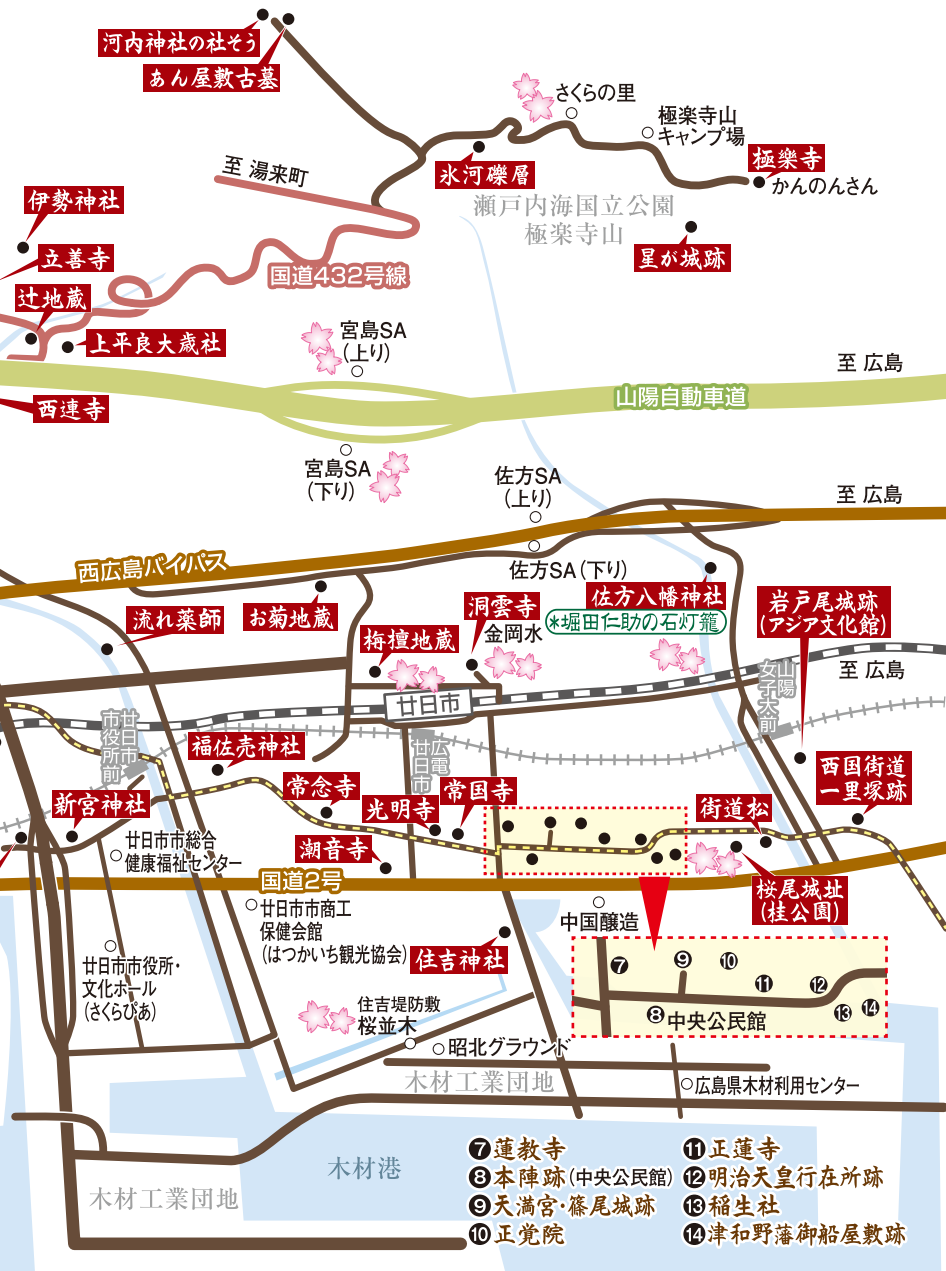


はつかいち地域史跡マップ



観光ガイドのご案内

廿日市市内（廿日市、佐伯、大野地区）の神社仏閣、施設、街道などをめぐる観光ガイドを行っています。時間や料金、対象など何でもお気軽にご相談ください。



廿日市市観光
ボランティアガイドわかば
☎0829-31-5656
 (はつかいち観光協会内)

佐伯観光
ボランティアガイドの会
☎0829-72-0690
 (佐伯商工会内)

大野歴史ガイドの会
☎0829-30-3533
 (はつかいち観光協会 大野支部内)

- ⑦ 蓮教寺
- ⑧ 本陣跡(中央公民館)
- ⑨ 天満宮・篠尾城跡
- ⑩ 正覚院
- ⑪ 正蓮寺
- ⑫ 明治天皇行在所跡
- ⑬ 稻生社
- ⑭ 津和野藩御船屋敷跡